

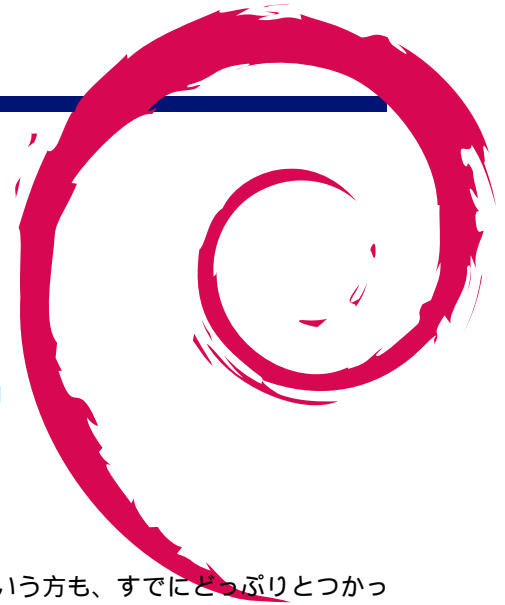


東京エリア Debian 勉強会

Debian 勉強会幹事 上川 純一
2007 年 12 月 15 日

1 Introduction

上川 純一



今月の Debian 勉強会へようこそ。これから Debian のあやしい世界に入るといふ方も、すでにどっぷりとつかっているといふ方も、月に一回 Debian について語りませんか？

目的として次の二つを考えています。

- メールではよみとれない、もしくはよみとってられないような情報について情報共有する場をつくる
- Debian を利用する際の情報をまとめて、ある程度の塊として整理するための場をつくる

Debian の勉強会といふことで究極的には参加者全員が Debian Package をがりがりとするスーパーハッカーになった姿を妄想しています。

Debian をこれからどうするといふ能動的な展開への土台としての空間を提供し、情報の共有をしたい、といふのが目的です。

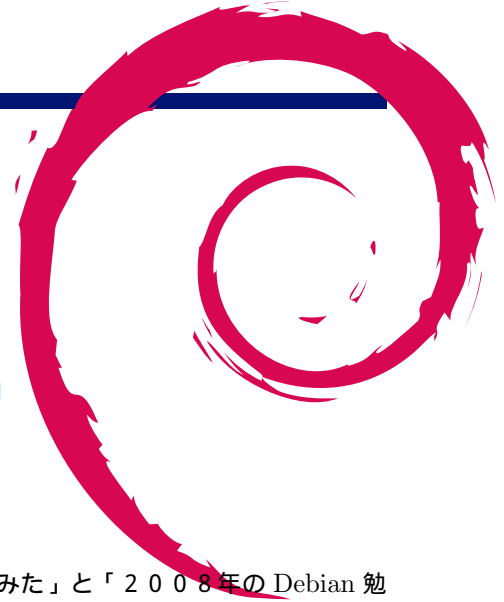
東京 Debian 勉強会

目次

1	Introduction	1
2	事前課題	3
2.1	石原怜美	3
2.2	小室 文	3
2.3	本庄	3
2.4	山本 浩之	4
2.5	前田 耕平	4
2.6	小林儀匡	4
2.7	吉田@板橋	5
2.8	あけど	5
2.9	山本 琢	5
2.10	キタハラ	6
2.11	上川 純一	6
3	Debian Trivia Quiz	7
3.1	問題	7
4	最近の Debian 関連のミーティング報告	8
4.1	東京エリア Debian 勉強会 34 回目報告	8
5	東京エリア Debian 勉強会の設計	9
5.1	Debian JP とは	9
5.2	Debian JP の各種会議体の位置付け	10
5.3	東京エリア Debian 勉強会における事前資料の意義	11
5.4	事前課題の役割	11
5.5	12 月の勉強会の役割	12
6	東京エリア Debian 勉強会のワークフロー	13
7	東京エリア Debian 勉強会資料の準備の方法	15
7.1	文章ルール	15
7.2	レポジトリの取得	15
7.3	コミットの方法	15
7.4	ファイルの編集	16
7.5	pLaTeX+latex-beamer で文書作成	17
8	関西 Debian 勉強会	19
8.1	関西 Debian 勉強会を運営して	19
8.2	関西 Debian 勉強会のワークフロー	19
9	各種イベント開催実績	21
10	東京エリア Debian 勉強会の 3 年間で生まれた Debian Developer は?	23

2 事前課題

上川 純一



今回の事前課題は「Debian 勉強会の目的と照らし合わせて 2007 年を評価してみた」と「2008 年の Debian 勉強会のために私はこうします」というタイトルで 200-800 文字程度の文章を書いてください。というものでした。その課題に対して下記の内容を提出いただきました。

2.1 石原怜美

2.1.1 Debian 勉強会の目的と照らし合わせて 2007 年を評価してみた

少ししか参加していないのでなんともいえない、です...でも、Debian 勉強会のことを知り合いに話したら興味を持ってもらえたので自分の中ではよし、とします。

2.1.2 2008 年の Debian 勉強会のために私はこうします

実は、地元に戻ってしまうので、私自身は参加できないのですが、友人にがんばってもらいます。地元でもちょっと普及の努力をしてみようかな...

2.2 小室 文

2.2.1 Debian 勉強会の目的と照らし合わせて 2007 年を評価してみた

メールでは読み取れない情報について情報共有する場を作る これに関してはもっと参加者が分からなかった事などを積極的に聞いたり、また自分で調べて発表するとか、そういう姿勢が足りなかったと思います。

Debian の利用方法を整理する場を作る よりよく使う方法と、よりよくする仕組みを作る方法があると思いますが、前者にフォーカスしていたので(フォーカスしやすいというのもありますが)、来期は 2 部構成などで、使う方法、作る方法など講義や論議が分かれていたらよいかもしれないなーと思いました。

2.2.2 2008 年の Debian 勉強会のために私はこうします

git を使えるようにします。Latex でもっと多彩な表現が出来るようにします。会社の引継ぎを Debian 使いにします。Exim の普及活動もついでにします。未来の Debian 使いを増やします。

2.3 本庄

2.3.1 「Debian 勉強会の目的と照らし合わせて 2007 年を評価してみた」

「勉強会の目的」を探してみたのですが、どうも見あたらないようでした。東京エリア Debian 勉強会のウェブページに、背景として「2005 年当初、東京近辺で、類似の勉強会は存在していませんでした。Debian について語る場所を提供するため、Debian 勉強会を開催します。」と書かれており、これが目的に相当するのではないかと思います

が、語る場として機能していたと思います。

2.3.2 「2008年のDebian勉強会のために私はこうします」

風邪で休んでしまったこともあったので、風邪ひかない。

2.4 山本 浩之

2.4.1 「Debian 勉強会の目的と照らし合わせて 2007 年を評価してみた」

うーむ、2007年の時点では、スーパーハカーにはまだなれていません。

2.4.2 「2008年のDebian勉強会のために私はこうします」

こんなわたくしでもお役に立つなら、お手伝いくらいはします。ただ、現在何が不足していて、どうお手伝いすればいいのかが分かりません。「雰囲気作りのために、声を出していこー」と、体育会みたいなノリでいいですかね？ 願わくば、講師ができるぐらいのスーパーハカーになればいいのですが...

2.5 前田 耕平

2.5.1 「Debian 勉強会の目的と照らし合わせて 2007 年を評価してみた」

Debian 勉強会の本来の目的という、Debian の開発者を増やす事ですよ。勉強会として今年を振り返ると、年初の勉強会でまずは裾野を広げ、分母を増やして開発者候補を増やそうという目標になった記憶があります。その点については新規参加者が増えたので成果はあったと思います。自分自身を振り返ると今年は昨年参加し始めたころからますます『お客さん』化しているなど反省。おまけに、未だ自宅鯖も Sarge のままだし。

2.5.2 「2008年のDebian勉強会のために私はこうします」

初心に戻り、当初勉強会に参加しようと思ったきっかけである、Hobbit の Debian の公式パッケージ化を目指して、ライセンスあたりが面倒でいつも中途半端になっている Debian パッケージの勉強をちゃんとします。ほいで、完全に放置状態にしてしまった査読を一日 10 分でもやります。その前に年内には、この帰っても休みでも仕事な状態を脱しないと。

2.6 小林儀匡

2.6.1 Debian 勉強会の目的と照らし合わせて 2007 年を評価してみた

今年の勉強会の目的は、(女子高生などはともかく)参加者を増やすことだった気がするので、それはクリアできたのではないかと思います。ただ、参加者を増やしたことが広義の開発者(公式開発者でなくてもパッケージ管理や翻訳に携わっている人を含む)の増加に繋がっているかといえば、間違いなく No でしょう。参加者がガリガリと Debian パッケージのメンテナンスをするような姿を想像する当初の目的とはずれてきている気がします。

2.6.2 2008年のDebian勉強会のために私はこうします

こんなところでしょうか。

- Debian 勉強会出身の公式開発者の一人になるべく New Maintainer (NM) process を進めます
- buildd や dak について勉強して皆さんの前で話をできるようになります。
- もし翻訳関連で何か話すべきことがあれば話をします。

2.7 吉田@板橋

2.7.1 Debian 勉強会の目的と照らし合わせて 2007 年を評価してみた

Debian 勉強会の目的とは <http://tokyodebian.alioth.debian.org/> から「Debian について語る場所を提供するため、Debian 勉強会を開催します。」と判断しました。

2007 年の東京エリア Debian 勉強会は、上川さん、岩松さんの毎回の勉強会での Debian の深いお話、イベントレポート、やまねさんの初心者向け Debian を引き込むプレゼンなどなど、素晴らしいお話を聞ける勉強会でした。元は東京で始まった、Debian 勉強会は関西でも定期的で開催されるようになり、荻窪、代々木、新宿 (OSC)、イギリス エジンバラ、IRC 開催等、地域や国、3 次元の枠を超え、活動的ですばらしいです。

2.7.2 2008 年の Debian 勉強会のために私はこうします

私はごくごく一般人のため、Debian 勉強会への貢献は難しいとは思いますが、イベントで Debian 勉強会関連の冊子の配布に協力させていただいたり、別の勉強会主催のインストールパーティで何も知らない一般人の PC(の VM 上)に Debian をインストールするなどひっそりと協力させていただこうと思います。

2.8 あけど

2.8.1 「Debian 勉強会の目的と照らし合わせて 2007 年を評価してみた」

今年 1 年を振り返って、自分に何が出来たのか考えてみました。

- 1 月一年の計画を立てた。
- 2 月 apt を少し勉強した。
- 3 月仮想化を少し勉強した。
- 4 月バージョン管理システムを少し勉強した。Mac に Debian をインストールしてみた。
- 5 月 Etch を少し勉強した。管理している Debian マシンを Etch にしてみた。
- 6 月エジンバラに行ってるメンバーと IRC しようとして挫折
- 7 月(お休み)
- 8 月 edn を少し勉強した。BSP に参加、少し査読。…って残りがまだあった! orz
- 9 月(お休み)
- 10 月 OSC で盛り上がった。
- 11 月(お休み)

後半は何かと忙しくて時間が取れなかったこともあり、殆ど何も出来てません。点数でいえば 20 点くらい? やりたかった事は何もできてませんので、来年はもう少し計画的にやって何か出来たという風にしたいです。

2.8.2 「2008 年の Debian 勉強会のために私はこうします」

今年の反省を踏まえ、自分に出来そうなことをやっていきたいです。1 つは、マニュアルのレシピ化というのを考えています。いわゆる事例集のようなものですが、各コマンドの実行例とコマンドオプションのポイントといったものをまとめてみたいと思います。来年の後半には何らかの発表が出来るようにしたいと思います。

2.9 山本 琢

今年勉強会で実現できたこと:

オープンソースのカルチャーに触れて、オープンソース開発に興味を持てた。

来年勉強会で実現したいこと:

実際にオープンソース開発プロジェクトに貢献(パッチを投げられる)し、その過程や成果についての報告や、ア

ドバイスが受けれるようにしたい。

2.10 キタハラ

2.10.1 「Debian 勉強会の目的と照らし合わせて 2007 年を評価してみた」

お題を見て、改めて勉強会の Web ページを見たのですが、「背景」はありますが「目的」はないですね。（見落としている？） 「背景」にある「Debian について語る場所を提供するため」というのが目的だとすると、有識者の方に大いに語って戴いて、（私の理解の範囲外なものもありましたが）多くの有用な知識を得ることが出来て、私にとっては（勉強会後の懇親会も含めて）大変有意義であったと思います。

真の目的（？）にはまったく貢献していませんが、無能が故ということでお許しください。

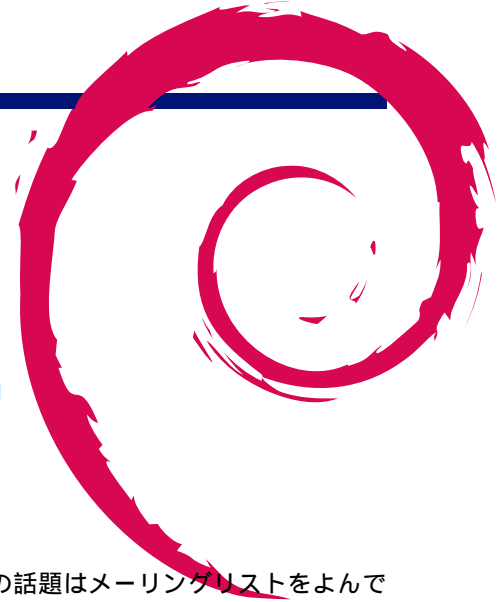
2.11 上川 純一

Debian 勉強会の目的と照らし合わせて 2007 年を評価してみたところ、自由の戦士 (Debian Developer) を量産することが目的だったのに、第 3 次自由の戦士量産計画は成果を出せずに終了しました。ふがない。

「2008 年の Debian 勉強会のために私はこうします」という観点からいうと、もしかして、NM キュー通過のためのブートキャンプなどをすればよいんじゃないか？

3 Debian Trivia Quiz

上川 純一



ところで、みなさん Debian 関連の話題においついていますか？ Debian 関連の話題はメーリングリストをよんでいると追跡できます。ただよんでいるだけでははりあいがないので、理解度のテストをします。特に一人だけでは意味がわからないところもあるかも知れません。みんなで一緒に読んでみましょう。

今回の出題範囲は `debian-devel-announce@lists.debian.org` に投稿された内容からです。

3.1 問題

問題 1. Debian Developer になる前の人たちのための制度で最近 Open Beta を開始したのは何か

- A Debian Maintainers
- B Ubuntu
- C Debian Account Manager

問題 2. Debian Auditor は誰か

- A Kalle Kivimaa
- B Anthony Towns
- C Sam Hocevar

問題 3. Anibal Monsalve Salazar が参加したのはどのチームか

- A Debian System Administrator
- B Debian Cabal
- C Debian Maintainer Keyring Team

問題 4. `debian/control` に追加された `Vcs-*` フィールドでないのはどれか

- A `Vcs-git`
- B `Vcs-rcs`
- C `Vcs-Mtn`

問題 5. `debian/control` でパッケージのアップストリームプロジェクトの URL を記述するためのフィールドは

- A Homepage:
- B URL:
- C Upstream:

問題 6. `dpkg-buildpackage` で並列ビルドをするためのコマンドラインオプションは

- A `-rfakeroot`
- B `-j`
- C `-noril`

問題 7. 2009 年開催予定の Debconf9 の場所が発表された、その場所は

- A Osaka
- B Tokyo
- C Extremadura

問題 8. Policy 3.7.3.0 で追加されなかった変更は

- A バージョン番号にチルドが利用できるようになった
- B 自由でないものはパッケージではない
- C Debconf を利用する場合は国際化対応必須

問題 9. `gnuab` にかわるリリースされていない Debian 移植版のホスティングの場所はどこか

- A `http://www.debian-doorstop.org/`
- B `http://www.debian-ports.org/`
- C `http://www.ubuntu.org/`



4 最近の Debian 関連のミーティング報告

上川 純一

4.1 東京エリア Debian 勉強会 34 回目報告

11 月の第 34 回東京エリア Debian 勉強会を実施しました。今回の参加者は山本浩之さん、小林さん、前田さん、satoken さん、キムラオサムさん、Mattia、Ester Celli、荒木淳さん、山本琢さん、やまねさん、でんさん、福田朝さん、本庄さん、キタハラさん、イアンルイスさん、千葉さん、岩松さん、野首さん、上川の 19 人でした。

まず、クイズを今回も実施しました。今回も DWN が出ていないので、debian-devel-announce の内容から出題しました。最後までのこった 3 人に特製の Debian 関連の豪華景品が渡されました。

最近のイベントについては、Biella Coleman の宴会についての報告を行いました。

事前課題の紹介をしました。サーバ関連については思うところがたくさんあるようで、文字数の制限にありったけの思いをみなさんつっこんでいました。よい点が多数あるけど、不満もあるようです。自動インストールの仕組み preseed についてはあまり試している人がいないようで、ぜひためしてみたいものです。

岩松さんが live-helper についての紹介をしました。細かい設定方法、ソースをよまないとおいついていけないような活発な開発状況などがあるそうですが、現状の live-helper の使い方についての情報が整理されていました。試してみる人が増えることで日本語の情報が増えるとよいですね。

野首さんが bluetooth のデバイスの使い方について紹介しました。市販のデバイスは PIN が固定のものが結構あり、0000 になっているものなのが多いようです。hcitool とかを駆使して設定するようです。google docs をつかってプレゼンテーションをしていました。また、岩松さんが野首さんの bluetooth マウスを乗っ取られる実演までしていました。

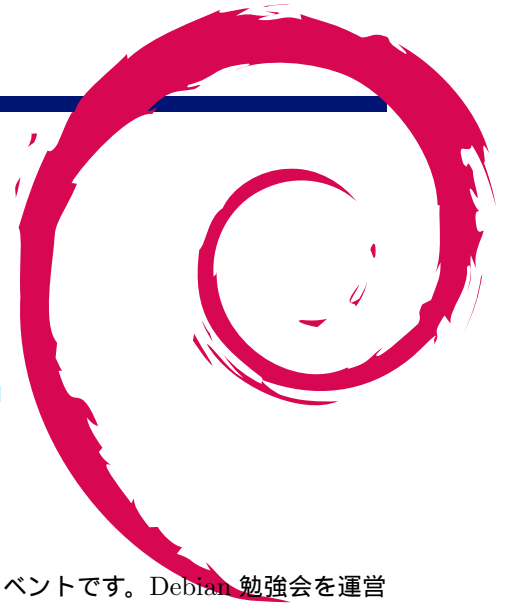
山根さんが TOMOYO Linux Kernel Patch パッケージを作成した際の体験談を語りました。dh-kpatches で実は結構簡単にできるということがわかりました。ただし、カーネルパッチは、元のカーネルが頻繁に大幅に変更されるもので、どのパッチがどのバージョンにあたってそれがどう動作するのかはたして確認できるのか、という点で議論が紛糾しました。Debian としてカーネルパッチが提供されているのだから、パッチが適用するレベルまでは確認すべきか、はたまたビルドして動作するところまで確認すべきか。Debian Project としてはユーザが色々試してバグ報告をすることに依存しているので、ぜひユーザのパワーを見せつけていただきたい所です。

上川が OSC Tokyo/Fall でのイベントの報告をしました。サーバ機器 ML350G5 と ML110G4 を試してみましたが、結局特殊な技は全然試せていません、ということで終わりました。会場は Eyetoy がどこに売っているのか、ということで盛り上がりました。

今回は宴会は時の居酒屋 刻 荻窪店にて開催しました。終電までみんなで宴会しました。みんな無事にかえれたかな？

5 東京エリア Debian 勉強会の設計

上川 純一



Debian 勉強会は Debian の日本における発展を支援するために実施しているイベントです。Debian 勉強会を運営している上での仮説を説明します。勉強会はこの仮説に基づいて運営しています。まず前提条件を整理したのち、現状の状況を分析して、Debian 勉強会からどういう成果が期待できるのかを整理します。

5.1 Debian JP とは

Debian Project メンバーの日本在住の有志および Debian Project の Debian Developer になる候補者で構成されているのが Debian 開発者の会 (Debian JP) です。Debian JP の会員はどのような人が存在しているのか、という点を議論したところ、下記の分類があぶり出されました。

- Debian JP の会員は開発・翻訳・インフラを担当している人により構成されています。過去の経緯により、既存の会則・方針では、Debian JP は「開発者の会」という位置づけのため、「ユーザ」については Debian JP 「会員^{*1}」ではありません。
- 開発者とは Debian JP で開発を行っている人、パッケージ・スポンサーされている人、New Maintainer、Debian Developer などをいいます。
- インフラは、Debian JP の運営に必要なインフラで ftp, www, svn, ML, LDAP などを行います。

キ ー コ	開 発 者	翻 訳 者
インフラ		

図 1 Debian JP のメンバー要素分類

Debian JP の目的としては、いろいろありますが、Debian の日本の開発者 (Debian Developer) のコミュニティとなることを目指しています。また日本における Debian の代表・とりまとめとしての役割をになっており、Debian が日本で利用しやすくなることの促進を行っており、翻訳作業のとりまとめや、外国から Debian Developer が来訪したときの宴会調整の連絡先として機能していたりします。また、Debian の商標を管理していたりします。

Debian JP が成功すると、Debian の日本語対応がよくなり、日本にいる Debian Developer がふえ、日本にいる Debian ユーザがふえ、日本で Debian を使うことがやりやすくなるはずで。

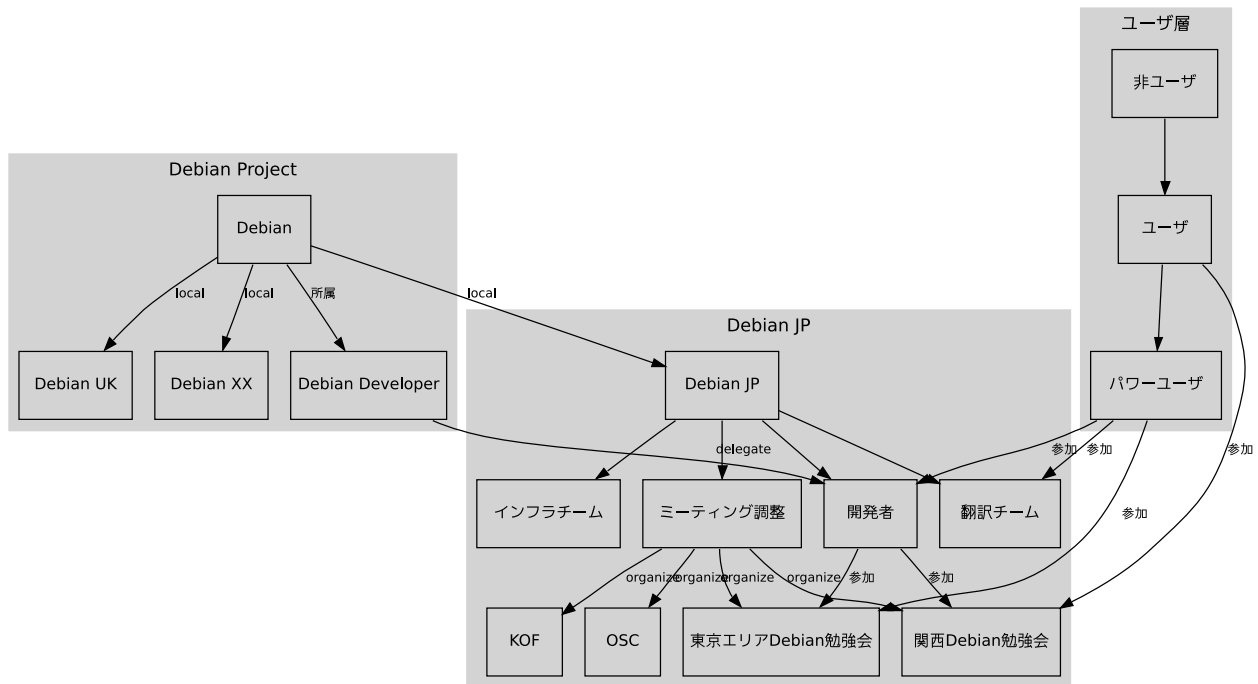
Debian JP の目的から考えると、開発者のコミュニティとしての機能、およびユーザとの情報交換の機能の部分を保管するのが東京エリア Debian 勉強会でしょう。また、今後の Debian Developer 候補の発掘・育成 (・そそのかし) のために活動すればよいでしょう。

^{*1} Debian 開発者の会の「会員」は会則に定義されており、例えば投票する義務のある人のことです

5.2 Debian JP の各種会議体の位置付け

Debian Project には各種組織、および会議体が存在します。東京エリア Debian 勉強会を中心に、それらの関係を整理してみます。

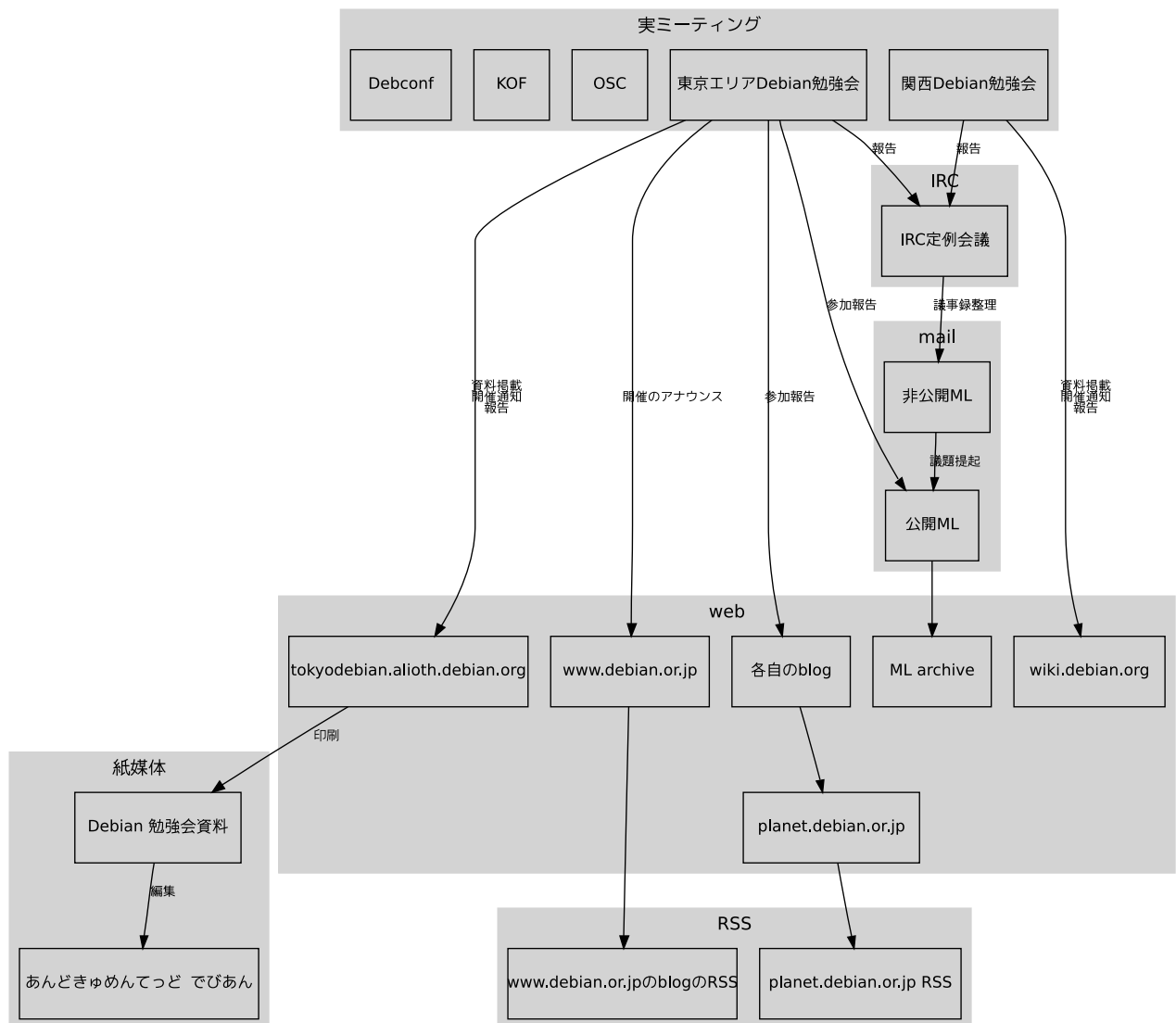
「東京エリア Debian 勉強会」は Debian Project の日本における組織である Debian JP が主体となり、「東京エリア Debian 勉強会幹事」に委任して開催しているイベントです。目的としているのは、Debian のパワーユーザと既存の開発者層に着目し、Debian Developer の育成、および翻訳活動に参加できる人たちへの情報提供、および必要な情報の交換です。



各種定期的に行っている会議体を整理してみます。

会	開催頻度	目的	参加者層
総会・選挙	年一回	Debian JP 内部の運営方針の策定	Debian JP 会員
OSC	年数回	新規ユーザ発掘・公報	OSC の一般参加者
東京エリア Debian 勉強会	月一回	Debian 開発者の新規発掘と支援	Debian の開発者をめざす東京近辺在住のメンバー
関西 Debian 勉強会	月一回	Debian ユーザ・開発者の新規発掘と支援	Debian を使う大阪近辺在住のメンバー
IRC 定例会議	月に二回程度	Debian JP の運営に関する情報共有と意思決定	Debian JP 会員

会議の情報が伝達される経路について整理してみます。Debian JP で利用している主な情報交換の方法を整理してみました。各種の会議が開催され、成果が報告されます。参加したメンバーが情報を得られるのはもちろんですが、参加していないメンバーもなんらかの情報が取得できます。事前資料は公開されるため、ウェブで取得できます。また、その他の情報取得の手段があります。



5.3 東京エリア Debian 勉強会における事前資料の意義

「事前資料」は記録性、参照性を重視しています。2007年12月の「事前資料」は当日の勉強会でも利用しますが、今年の勉強会の幹事・講師をしてくれる人の説明資料としても随時利用します。「これを読めば何をすればよいかかわかる」という形にしたいと思っています。プレゼンテーションに利用する資料は若干毛色が違い、議論するためのフレームワークを提供するものだと考えています。

「事前資料」については、勉強会で紙の媒体の資料として利用すると、コミックマーケットを契機として「アンドキュメンティッド Debian」として再度編集し、半年に一度まとめて製本します。そのことで、知識の精査、定着と展開がはかれることを目的としています。

5.4 事前課題の役割

東京エリア Debian 勉強会では、ただのセミナー参加でおわることは期待していません。理想的な最終目標としては、Debian Developer としてばりばりと貢献できるような意識の高い参加者を求めています。そこまでの理想を追い求めるのは現実的ではないにしても、何も準備せずに参加するより、何らかの心構えをして参加してもらった方がよいだろうということで、毎回事前課題を設定しています。いろいろなアイデアが出てきておもしろいです。

参加する際には事前課題は必須ということにしています。今年の参加者の事前課題の提出率を見ると半分以上が提

出していることが分かります。

表 1 2007 年の事前課題

	参加人数	事前課題提出人数	内容
2007 年 1 月	15	6	今後、勉強会につかう施設を提案してください、2007 年の勉強会の各月のアジェンダを提案してください
2007 年 2 月	13	8	apt に足りなさそうな機能、パッケージングを試みて感じたこと、または何故パッケージングをしないか
2007 年 3 月	80	6	仮想化を実際にこういう利用方法で活用しています
2007 年 4 月	19	14	私はバージョン管理システムをこのようにつかっています
2007 年 5 月	23	14	「エッチになって困った事」
2007 年 6 月	4		
2007 年 7 月	18	12	今後 Debconf を日本で開催するために Debian の認知度を上げる方法、企業が Debconf のスポンサーになるためには
2007 年 8 月	25	18	ここ最近 Debian を使っていてハマったこと/ちょっと感激したこと、apt の sources.list はこう書く
2007 年 9 月	14	7	「あなたが Debian で使っている MTA のこだわりの設定」もしくは「Debian で利用しているこんな便利な/楽しいメッセージツールあるいは日頃使っていて気にかかるメッセージ関連ソフトのこの部分」
2007 年 10 月	30		
2007 年 11 月	19	10	「Debian の Live CD ってこんなふうに使えます」もしくは「ノート PC やデスクトップ PC ではなく、サーバ機器での Debian に期待するものって何？」
2007 年 12 月	11	11	「Debian 勉強会の目的と照らし合わせて 2007 年を評価してみた」と「2008 年の Debian 勉強会のために私はこうします」

5.5 12 月の勉強会の役割

毎年の忘年会をかねて東京エリア Debian 勉強会の 12 月開催は、一年間を反省する会を開催しています。12 月号の事前資料は、運営に関連する情報を共有するために準備しています。ターゲットは幹事・講師で、その説明文を見ることが講師や幹事が何をどういう理由で実施する必要があるのかを理解できることを目的としています。内容については定期的に修正が必要なものなので、毎年 12 月の資料として新規に作成しています。勉強会の目的は通常と違い、勉強会の実績の確認と、今後の方向性の策定だけをするという会にしています。

6 東京エリア Debian 勉強会のワークフロー

上川 純一



東京エリア Debian 勉強会は事前に会場も日時も決定してしまっています、そのため資料の準備・告知・予約などができる期限が決まっています。Debian 勉強会では月に二回行われる Debian JP IRC 定例会議と、幹事用のメーリングリストを利用して進捗の管理をしています。開催直前の最後の一週間はタイトになります。ワークフローの内容をみてみましょう。git レポジトリの `planner/200704-tokyo.ods` にファイルが置いてあります。

毎月の作業は次のようなものがあります。

会場確保 勉強会の会場を予約します。2ヶ月前程度に予約しないと大抵の会場はうまってしまいます。日程については年間スケジュールを事前に確定しておき、それから若干の調整をかける形にするのがよいでしょう。

企画立案 企画を立案します。前回の勉強会の宴会、もしくは年初の企画会議などで決定します。

講師確保 前回の勉強会であたりをつけて、講師候補のメールで調整するようにします。

資料作成依頼 資料の作成を講師に依頼します。資料の作成の方法についての資料も必要でしょう。

資料作成 講師が資料を作成します。git レポジトリを活用して共同作業をするのがよいでしょう。

資料編集 資料を集めて資料を編集します。元の資料が $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ でない場合には $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ 形式にする作業などがあります。ページ数にあてはまるようにする、用語を統一する、誤字脱字を修正する、などの対応を行います。

印刷向け編集 (4の倍数) 冊子として印刷に出すときに紙は4ページの倍数である必要があります。そのため技を駆使します。内容をけずったり、画像の位置を微調整したり、フォントを小さくしたり、文章が一行におさまるように書き直したり、などの技があるようです。

kinkos 印刷依頼 kinkos に印刷を依頼します。ウェブ経由でお願いすることができます。 <http://www.kinkos.co.jp/> からアクセスして、「オンラインプリント」のメニューを選択します。半日程度 (12 時間) は余裕をみてあげるのがよいでしょう。

kinkos 印刷受け取り 印刷したものを受け取ります。面倒ですが、確認の意味も含めて、直接うけとって支払うのがよいでしょう。

事前課題設定 参加者に事前に考えてきてほしい内容を設定します。勉強会の次回の企画テーマにあうようなものがよいです。またハードルが高すぎると参加者がこまっちゃうので気を付けましょう。

事前課題提示 事前課題をウェブページに提示します。

資料反映 資料を反映します。

DWN Quiz 作成 クイズを作成します。わからないとどうしようもないので、わかりやすいものをこころがけましょう。

DWN Quiz 景品準備 何か景品を準備しましょう。

案内文文書作成 案内文の素案を作成します。見た人が参加したくなるように、また参加して意味のある人が参加できるように、何を期待したらよいかを明確にします。これは幹事 ML でレビューにまわします。

案内文確定 レビューした後、案内文を確定します。各種メディアに展開します。

alioth ウェブ掲載 alioth のウェブページに掲載します。

debian.or.jp 掲載 debian.or.jp のウェブページに掲載します。掲載の方法については <http://www.debian.or.jp/community/translate/webmasters.html> を参照。www/trunk/src/community/events/index.tt2 のイベントの一覧に追加し、www/trunk/blosxom/data/ に blog エントリーを追加します。

mixi 掲載 mixi の debian コミュニティーに掲載します。 http://mixi.jp/view_community.pl?id=95

debian-devel 投稿 Debian JP のメーリングリスト debian-devel@debian.or.jp, debian-users@debian.or.jp に投稿します。二週間前ごろをメドにします。

debian-devel 再度投稿 数日前に再度投稿します。

予約システムの作成 宴会くん <http://utage.org/enkai/> などを利用し、予約用のエントリーを作成します。これは 3 週間前くらいにはつくっておきます。

参加者把握 数日前に参加者を把握しておきます。

出席簿印刷 当日のために出席簿を印刷します。

宴会予約 宴会の場所を予約します。場所によりますが前日までに予約したほうがよいです。店に電話で直接連絡します。

宴会費回収 宴会を開催、代金を回収します。5000 円、4000 円などのきりのよい金額が会費として徴収できるように調整します。東京 Debian 勉強会では講師をしてくれた人に関しては徴収しないようにしています。

会場設置 会場を設置します。事前に幹事がはやめに入ることが必要です。一人ではできないので、手伝ってくれる人がきてくれないと困るな。

出席確認 会費を徴収し、資料を配布します。受付担当者としては、参加者の方の名前を覚えるチャンスです。

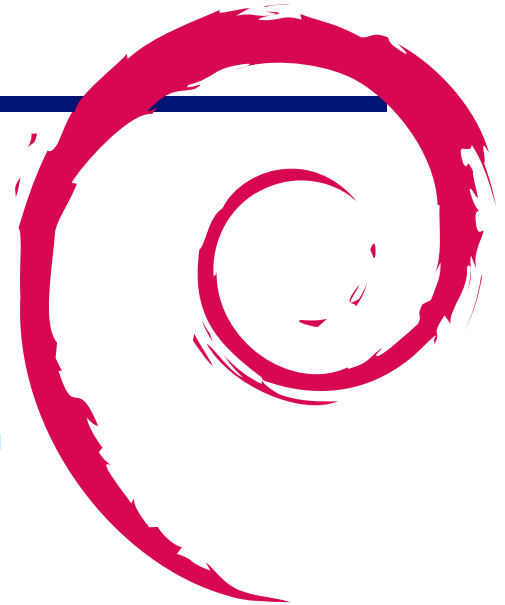
結果報告書整理 実際に今回どういう会だったのかということを整理し、報告にまとめます。 <http://tokyodebian.alioth.debian.org/> ウェブページから反応リンク集という形でまとめ、Debian JP IRC 会議にて内容を報告します。

年間一度している作業内容は次のようなものがあります。

年間スケジュール設定 一年間のスケジュールを決定します。内容についてはあまり重要ではありませんが、会場の予約のためには日程が決まっていることが重要です。

前年度の内容確認 出席者の傾向、開催内容の傾向と参加者数の増減、Debian JP の傾向などを分析し、どういう状況で、何が行われたのか、を確認します。

tokyodebian-XXX ML 作成 事前課題を投稿してもらっているメーリングリストを再設定します。



7 東京エリア Debian 勉強会資料の準備の方法

上川 純一

7.1 文章ルール

文章は敬体に統一しましょう。

固有名詞は基本としては敬称略、フルネーム、で記述しましょう。日本名称の場合、苗字と名前の間には半角の空白を一字入れます。

7.2 レポジトリの取得

まず最初に git のレポジトリを取得します*2。読み込み専用であれば、git プロトコル、もしくは、http プロトコルでよいでしょう。書き込み権限を持っているのであれば、ssh プロトコルを利用すれば直接 git push でアクセスすることができます。

```
git clone git://git.debian.org/git/tokyodebian/monthly-report.git
git clone http://git.debian.org/git/tokyodebian/monthly-report.git
git clone ssh://git.debian.org/git/tokyodebian/monthly-report.git
```

この結果、カレントディレクトリに monthly-report というディレクトリができます。monthly-report/.git 以下がレポジトリです。git の使いかたについては 4 月の資料を参照してください。

```
$ ls -la monthly-report/ | head
合計 2500
drwxr-xr-x 28 dancer dancer 1960 2007-04-22 09:46 .
drwxrwxrwt 17 root root 560 2007-04-22 09:46 ..
-rw-r--r-- 1 dancer dancer 168 2007-04-22 09:46 .cvsignore
drwxr-xr-x 8 dancer dancer 240 2007-04-22 09:46 .git
-rw-r--r-- 1 dancer dancer 61 2007-04-22 09:46 .gitignore
-rw-r--r-- 1 dancer dancer 71 2007-04-22 09:46 .whizzytexrc
-rw-r--r-- 1 dancer dancer 145 2007-04-22 09:46 .yatexrc
-rw-r--r-- 1 dancer dancer 17989 2007-04-22 09:46 COPYING
-rw-r--r-- 1 dancer dancer 25069 2007-04-22 09:46 ChangeLog
```

7.3 コミットの方法

まず、PDF ファイルが生成できることを確認します。Makefile があるので、make コマンドを入力するとビルドしてくれるはずですが、文字コードが正しいか、正常にビルドできるか、などのチェックが組み込まれているので、チェックに活用しましょう。

```
make
```

*2 git の使いかた詳細については、2007 年 4 月の勉強会資料を参照してください。 apt-get install git-core でインストールできます。

その後、git diff でコミットされる内容を確認します。意図している内容が表示され、問題ないようであれば、git commit コマンドでコミットします。手元のレポジトリに反映されます。

```
git diff
git commit -a -m 'revised XXX'
```

問題がないようであれば、git pull / git push でマージします。git-pull した後にコンフリクトが発生したら、修正し、git commit でコミットしてから git push します。

```
git pull
git push
```

新規のファイルを追加する場合、ファイルを削除する場合には、git add / git rm コマンドを利用します。

7.4 ファイルの編集

ドキュメントは p^LA^TE^X で作成しています。ファイル名として下記になっています。(YYYY)(MM) は、年と月で、例えば 2007 年 12 月であれば 200712 です。

debianmeetingresume(YYYY)(MM).tex 事前配布資料

debianmeetingresume(YYYY)(MM)-presentation.tex プレゼンテーション用 (prosper を利用)

image(YYYY)(MM)/ 画像ファイルなどの置き場

作業する前にビルドに必要なパッケージをインストールします。

```
# tex から PDF の生成関連
apt-get install ptex-bin dvipdfmx latex-beamer \
okumura-clsfiler gs-esp xpdf xpdf-japanese
```

編集に便利なツールもついでにインストールしてみてもよいでしょう。

```
apt-get install whizzytex advi emacs21 yatex gs-cjk-resource gv
```

tex4ht を利用して HTML 出力をさせる場合は下記もインストールしたらよいでしょう。ただし、2007 年 8 月現在、dvi2ps-fontdata-a2n の影響で dvi 出力ができなくなる副作用があります。

```
# tex4ht での HTML 生成関連
apt-get install dvi2ps-fontdata-a2n dvi2dvi dvipng tex4ht
```

文字コードは iso-2022-jp で統一しています^{*3}。たとえば、emacs + yatex を使用している場合で iso-2022-jp をデフォルトにするには、下記のような設定を .emacs にかければよいでしょう。

```
(add-hook 'yatex-mode-hook
  '(lambda ()
    (progn
      (if (string-match "~/home/user/tokyodebian/" default-directory)
          (progn (set-buffer-file-coding-system 'iso-2022-jp)
                 (set-buffer-modified-p nil))))))
```

emacs での編集で、outline-mode を利用すると、アウトラインをベースに編集することができ、便利です。tex ファイルの最後に以下のようなエントリーを追加しています。M-x outline-minor-mode で有効にできます。

```
;;; Local Variables: ***
;;; outline-regexp: "\\([ <タブ記号>]*\\\\\\\\\\\\\\\\(documentstyle\\\\\\\\documentclass\\\\\\\\|<改行しない>
dancersection\\\\\\\\)*?[* <タブ記号>]*[[[\\|\\|<<L>]+\\\\\\\\]" ***
;;; End: ***
```

- <タブ記号>: タブを入力、

^{*3} Windows 版と Linux 版の ptex で共通して扱える文字コードにしたという経緯があります。ただし現状 Windows で全部できる状況ではありません。

- <~L>: ctrl-L を入力、
- <改行しない>: この改行はみやすいように改行をいれているだけで、実際には改行は入力しない。

また、自動で適切な設定で outline-minor-mode に入るように .emacs に設定してもよいでしょう。

```
(add-hook
'yatex-mode-hook
'(lambda ()
  (make-variable-buffer-local 'outline-regexp)
  (setq outline-regexp
    "\\([ \\t]*\\\\\\\\(documentstyle\\\\|documentclass\\\\|chapter\\\\|dancersection\\\\|
section\\\\|subsection\\\\|subsubsection\\\\|paragraph\\\\)*?[ \\t]*[{}\\|[%&f]+\\\\)")
  (setq
outline-level
  (function
  (lambda ()
    (save-excursion
      (looking-at outline-regexp)
      (cond
        ((equal (char-after (match-beginning 0)) 37) (- (match-end 0) (match-beginning 0)))
        (t (let ((bs (buffer-substring (match-beginning 2) (match-end 2))))
              (cond ((equal (substring bs 0 2) "do") 15)
                    ((equal (substring bs 0 1) "c") 0)
                    ((equal (substring bs 0 1) "p") 4)
                    ((equal (substring bs 0 2) "da") 1) ; dancersection
                    ((equal (substring bs 0 2) "se") 1) ; section
                    ((equal (substring bs 0 5) "subse") 2) ; subsection
                    ((equal (substring bs 0 8) "subsubse") 3) ; subsubsection
                    (t (length bs))))))))))
  (outline-minor-mode t)))
```

7.4.1 ドキュメントのスタイル

スタイルファイルは monthlyreport.sty パッケージを利用します。過去の資料を参考にしてください。

```
\usepackage{monthlyreport}
```

各担当部分は section として扱います。特別なコマンド dancersection で指定します。形式は dancersection{ タイトル }{ 作者名 } です。その中で subsection や subsubsection を利用して文書を構成してください。

```
\dancersection{Debian 勉強会資料の準備の方法}{上川 純一}
\label{sec:debmtg2007howtoprepare}
```

7.4.2 目次の処理

目次のエントリは下記の形式で作成します。

```
index { alphabet もしくは、 ひらがなの読み @ 項目名称 }
```

7.4.3 画像ファイルの処理

画面写真の画像を追加するときは、できるだけサイズの小さい png などを利用してください。グラフなどの線画であれば、eps でかまいません。png であれば、ebb コマンドを利用して bounding box を作成してください。

```
ebb XXX.png
```

ps であれば、eps2eps でバウンディングボックスを追加してあげるとうまくいきます。sodipodi の出力する ps を eps2eps で処理すれば sodipodi で画像を作成することができます。

7.5 pLaTeX+latex-beamer で文書作成

latex-beamer で生成したファイルは現状 whizzytex+advi でプレビューできませんが、gv, もしくは xpdf を利用してプレビューすることは可能です。gv を利用する場合は最初の行に ps モードを指定してください。advi のように自動で編集しているページにとんでくれはしませんが、自動リビルド、および自動更新はかかります。

```
%; whizzy document -ps gv
```

xpdf を利用する場合は下記のように設定します。

```
%; whizzy section -pdf xpdf -latex ./whizzypdfptex.sh
```

The image shows a side-by-side comparison of a document's rendered PDF and its source code in Emacs. The left window, titled 'Advi: whizzy_debianmeetingresume200712.wdvi', displays a PDF document with sections 7.3.3, 7.4, and 7.5. The right window, titled 'emacs@dancer64.netfort.gr.jp - /home/dancer/cvscheckout/external/to...', shows the LaTeX source code for the document. The code includes sections for document creation and article rules, with comments in Japanese. The Emacs window also shows a terminal output at the bottom.

7.3.3 画像ファイルの処理

画像写真の画像を追加するときは、できるだけサイズの小さい png などを利用してください。グラフなどの線画であれば、eps でかまいません。png であれば、ebb コマンドを利用して bounding box を作成してください。

ps であれば、eps2ps でバウンディングボックスを追加してあげるとうまくいきます。sodipodi の出力する ps を eps2ps で処理すれば sodipodi で画像を作成することができます。

7.4 pLaTeX+latex-beamer で文書作成

latex-beamer で生成したファイルは現状 whizzytex+advi でレビューできませんが、gv、もしくは xpdf を利用してレビューすることは可能です。gv を利用する場合は最初の行に ps モードを指定してください。advi のように自動で編集しているページにとんでくれはしませんが、自動リビルド、および自動更新はかかります。

1: whizzy document -ps gv

xpdf を利用する場合は下記のように設定します。

1: whizzy section -pdf xpdf -latex ./whizzypdfptex.sh

7.5 文章ルール

文章は敬体に統一しましょう。

固有名詞は基本としては敬称略、フルネーム、で記述しましょう。日本名称の場合、苗字と名前の間には半角の空白を一文字入れます。

作成することができます。

latex-beamer で生成したファイルは現状 whizzytex+advi でレビューできませんが、gv、もしくは xpdf を利用してレビューすることは可能です。gv を利用する場合は最初の行に ps モードを指定してください。advi のように自動で編集しているページにとんでくれはしませんが、自動リビルド、および自動更新はかかります。

```
\begin{commandline}
%: whizzy document -ps gv
\end{commandline}

xpdf を利用する場合は下記のように設定します。

\begin{commandline}
%: whizzy section -pdf xpdf -latex ./whizzypdfptex.sh
\end{commandline}
```

文章ルール

文章は敬体に統一しましょう。

固有名詞は基本としては敬称略、フルネーム、で記述しましょう。日本名称の場合、苗字と名前の間には半角の空白を一文字入れます。

```
\dancersection{関西 Debian 勉強会のワークフロー}(矢吹 幸治)
\label{sec:kansai2007workflow}
\index{debianjp@Debian JP}
\index{かんさいてびあん@関西Debian勉強会}

\dancersection{関西 Debian 勉強会を運営して}(矢吹 幸治)
\label{sec:kansai2007operation}
\index{debianjp@Debian JP}
\index{かんさいてびあん@関西Debian勉強会}

\dancersection{各種イベント開催実績}(上川 純一)
\label{sec:debtg2007results}
\index{debianjp@Debian JP}
\index{とうきょうえりあ@東京エリアDebian勉強会}

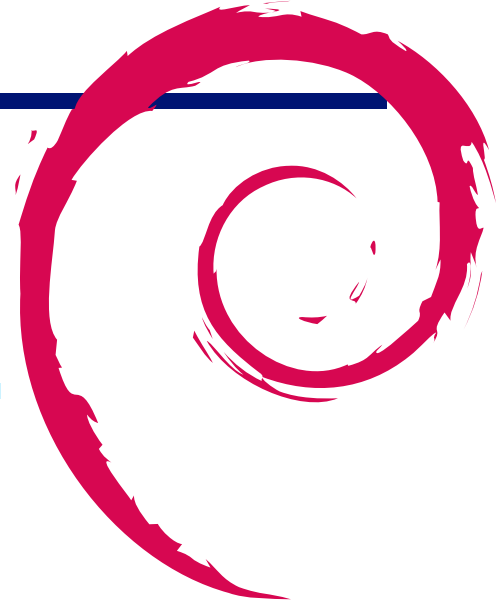
各種勉強会の過去の実施実績をまとめます。

\begin{table}[ht]
\begin{minipage}[0.5\hsizel
```

--J:-- debianmeetingresume200712.tex 73% L596 (やて、Whizzy.4

8 関西 Debian 勉強会

山下 尊也



8.1 関西 Debian 勉強会を運営して

この 1 年間、いろいろな人の支えがあって勉強会が成立したのだと、12 月の忘年会が終わった後の私の率直な感想です。9 月に矢吹さんから私に担当が変わり、最初は運営の方でかなり悩んでいました。だって、宴会の幹事とかやった事がない 20 歳になったばかりの担当者ですから。しかし、回を重ね、それらは宴会などで運営についての会話を続ける事により、お互いが理解出来る状態になれたと思います。そのため、来年の目標は、「長続きできる勉強会」と言うテーマで運営していきます。

一人の力で運営を行うと、その一人が忙しくなった場合などに対応できず、バトンパスさえも難しい状況に陥ります。しかし、日頃から分担して作業を行なっていれば、これからも継続出来るでしょう。

また、Debian についてもっと知りたいと言う事で、関西 Debian 勉強会の有志で関西 Debian 勉強会とは独立した形で、週に一度、読書会 (KDR) を開いています。東京と色は違いますが、関西なりの色で私たち関西 Debian 勉強会は、より多く Debian を愛する人で集い、勉強し、お互いが成長出来る勉強会にしたいと考えています。

8.2 関西 Debian 勉強会のワークフロー

では、感想を述べたところで、実際のワークフローについて紹介します。

関西 Debian 勉強会では、東京エリア Debian 勉強会と同様に、Debian JP の IRC 定例会議に参加し、報告はしていますが、IRC 会議に出れる関西 Debian 勉強会のメンバーが少ないため、主に幹事用のメーリングリストを利用して進捗の管理をしています。まだ、確立出来てない部分もあり、最後の一週間はとてもタイトになります。この一年で関西なりに工夫したワークフローです。東京のワークフローを参考に作成しました。関西 Debian 勉強会では、共有作業の利便性の面で Google ドキュメントで管理しています。

会場確保 ほとんどの会場は、3ヶ月前から予約の受付が始まります。関西 Debian 勉強会は土日の午後を予約するため、2ヶ月前にはほとんどの場所が予約で埋まってしまいます。そのため、企画が決定するより前に会場を確保します。会場の料金支払いについては、前日までに入金すれば良いなど比較的融通効くので、とりあえず会場を確保します。また、プロジェクターを利用する場合は会場確保の段階で伝えておかないと、当日借りる事が出来ない場合もあります。気をつけましょう。

企画立案 企画を立案します。前回の勉強会の宴会で大抵決定します。12 月の忘年会で、どこらへんでお願いするかなどをお願いしておきます。

講師確保 前回の勉強会の宴会であたりをつけて、講師候補のメールで調整するようにします。

資料作成依頼 資料の作成を講師に依頼します。

資料作成 講師が資料を作成します。

資料編集 資料を集めて資料を編集します。関西 Debian 勉強会では、講師の負担を軽減するため、 $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ に限定は

してありません。そのため、OpenOffice での提出も可能です。

印刷向け編集 利便性の向上のため、PDF で結合します。pdftk^{*4}などを使うと良いでしょう。

印刷 kinkos^{*5} やカンプリ^{*6}などの業者さんに持って行きます。カンプリの場合は、メンバー割引があり、kinkos の場合は、学生割引があります。開催者側の予定が合わない場合は、kinkos に Web から印刷を依頼する事を検討しても良いかもしれません。

事前課題設定 関西 Debian 勉強会では、基本的に参加者の敷居を下げるために事前課題の設定はしてありません。ただし、希望などがある際は、ML で相談して事前課題を設定します。

事前課題提示 事前課題を Wiki に提示します。

資料反映 資料に反映します。

案内文文章作成 案内文の作成をします。文面は前回の勉強会の時に使ったものを再利用して加工したものに対して ML で手直しを依頼します。

案内文確定 手直しなどがなくなったら、案内文を確定します。

mixi 掲載 mixi の debian コミュニティ^{*7}と、Debian 初心者！コミュニティ^{*8} に投稿します。また、女性の Linux 使いコミュニティ^{*9}に投稿してもらうために、女性の方に依頼します。

イベント管理システムの作成 参加者が参加申し込みのためのフォームを作成します。cotocoto 京都^{*10}などを利用し、debian-users,debian-devel に投稿する前には作成しておきます。

debian-users,debian-devel 投稿 Debian JP のメーリングリスト^{*11} に投稿します。二週間前ごろをメドにします。

debian-users,debian-devel 再度投稿 一週間前ごろをメドにします。ここで変更すべき内容は変更を行い、当日の予定とします。

DebianJP ページ DebianJP 会員が、DebianJP のイベントのページを更新します。

参加者把握 数日前に参加者を把握しておきます。

出席簿印刷 当日か前日に出席簿を印刷します。

宴会予約 宴会の場所を予約します。店に電話で直接連絡します。最近の参加者の意見として、4000 円以内に収まる事が望ましいみたいです。

宴会費回収 宴会の最後に、代金を回収します。関西 Debian 勉強会では、講師の方と学生については 1000 円引きを実施しています。

会場設置 事前に幹事がはやめに入ることが必要です。開始時刻よりも前から会場を取っているの、30 分ほど前には集まり、会場を設置します。

出席確認 出席を確認します。幹事と講師はプロジェクターの設置などで忙しいため、それ以外の方にやっていただきます。

結果報告書整理 Debian wiki^{*12}の関西 Debian 勉強会のページに反応集があるので、そこに記述を行います。まだ Debian Wiki のアカウントを持っていない方は、今後のために、アカウントを取っておきましょう。また、結果は DebianJP 定例会議や、次の勉強会で発表します。

資料公開 Debian wiki^{*13}の関西 Debian 勉強会のページに資料を公開します。

*4 <http://packages.debian.org/sid/pdftk>

*5 <http://www.kinkos.co.jp/>

*6 <http://www.kanpuri.co.jp/>

*7 http://mixi.jp/view_community.pl?id=95

*8 http://mixi.jp/view_community.pl?id=958407

*9 http://mixi.jp/view_community.pl?id=513105

*10 <http://cotocoto.jp>

*11 debian-users@debian.or.jp, debian-devel@debian.or.jp,

*12 <http://www.debian.org>

*13 <http://www.debian.org>

9 各種イベント開催実績

上川 純一

各種勉強会の過去の実施実績をまとめます。東京エリア Debian 勉強会と、関西 Debian 勉強会について整理します。グラフにしてみると図 2 になります。

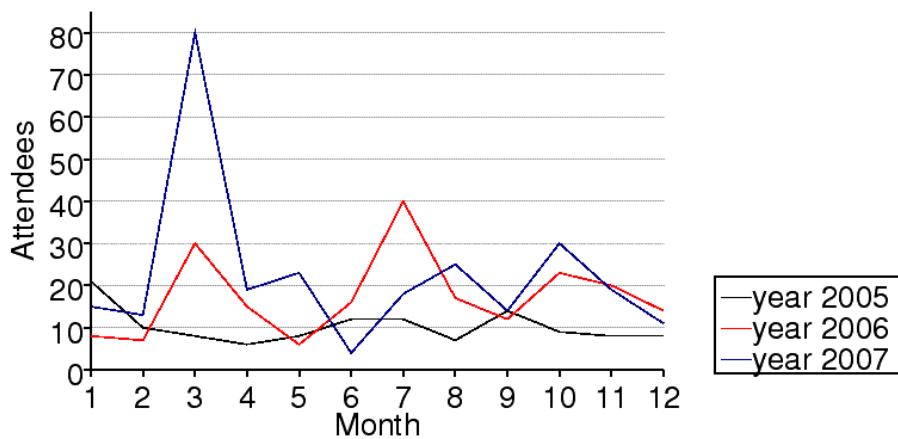


図 2 参加人数推移

表で見てください。

表 2 東京エリア Debian 勉強会参加人数 (2005 年)

	人数	内容
2005 年 1 月	21	秘密
2005 年 2 月	10	dehelper1
2005 年 3 月	8	(早朝) dehelper2、social contract
2005 年 4 月	6	dehelper3
2005 年 5 月	8	DFSG、dpkg-cross、lintian/linda
2005 年 6 月	12	alternatives、d-i
2005 年 7 月	12	toolchain、dpatch
2005 年 8 月	7	Debconf 参加報告、ITP からアップロードまで
2005 年 9 月	14	debconf
2005 年 10 月	9	apt-listbugs、バグレポート、debconf 翻訳、debbugs
2005 年 11 月	8	DWN 翻訳フロー、statoverride
2005 年 12 月	8	忘年会

表 3 東京エリア Debian 勉強会参加人数 (2006 年)

	参加人数	内容
2006 年 1 月	8	policy、Debian 勉強会でやりたいこと
2006 年 2 月	7	policy、multimedia
2006 年 3 月	30	OSC: debian 勉強会、sid
2006 年 4 月	15	policy、latex
2006 年 5 月	6	mexico
2006 年 6 月	16	debconf、cowdancer
2006 年 7 月	40	OSC-Do: MacBook Debian
2006 年 8 月	17	13 執念
2006 年 9 月	12	翻訳、Debian-specific、oprofile
2006 年 10 月	23	network、i18n 会議、Flash、apt
2006 年 11 月	20	関西開催: bug、sid、packaging
2006 年 12 月	14	忘年会

表 4 東京エリア Debian 勉強会参加人数 (2007 年)

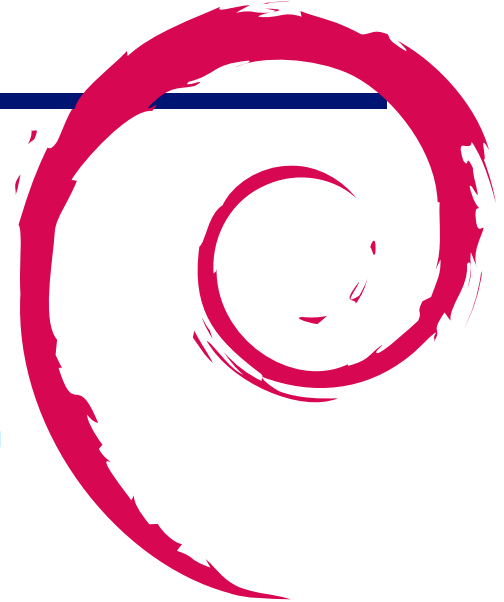
	参加人数	内容
2007 年 1 月	15	一年を企画する
2007 年 2 月	13	dbcs、dpatch
2007 年 3 月	80	OSC 仮想化
2007 年 4 月	19	quilt、darcs、git
2007 年 5 月	23	etch、pbuilder、superh
2007 年 6 月	4	エジンバラ開催: Debconf7 実況中継
2007 年 7 月	18	Debconf7 参加報告
2007 年 8 月	25	cdn.debian.or.jp
2007 年 9 月	14	exim
2007 年 10 月	30	OSC Tokyo/Fall(CUPS)
2007 年 11 月	19	live-helper、tomoyo linux kernel patch、server
2007 年 12 月	11	忘年会

表 5 関西 Debian 勉強会参加人数 (2007 年)

	参加人数	内容
2007 年 3 月	19	開催にあたり
2007 年 4 月	25	goodbye、youtube、プロジェクトトラッカー
2007 年 6 月	23	社会契約、テーマ、debian/rules、bugreport
2007 年 7 月	20 前後	OSC-Kansai
2007 年 8 月	20	Inkscape、patch、dpatch
2007 年 9 月	16	ライブラリ、翻訳、debtorrent
2007 年 10 月	22	日本語入力、SPAM フィルタ
2007 年 11 月	20 前後	KOF
2007 年 12 月	15	忘年会、iPod touch

10 東京エリア Debian 勉強会の 3 年間で生まれた Debian Developer は？

上川 純一



Debian 勉強会はなんだかんだとって、3 年間実施してきました。Debian 勉強会の当初の目標はばりばりとした開発者の育成をめざすところにあったはずですが、直接的に計測するのは難しいですが、例えば Debian Developer ではなかった人が開発をする上での支援ができれば目標にそった活動ができていたといえるのではないのでしょうか。では、確認してみましよう。

残念ながら Debian 勉強会のおかげで Debian Developer になったと言える人はまだいないようです。Debian 勉強会の参加者で、まだ Debian Developer でない人たちで、担当パッケージをもっている人たちを任意に抽出してその状況を確認してみました。

- 山根さん <http://qa.debian.org/developer.php?login=henrich@debian.or.jp>
eclipse-nls-sdk、jd、ttf-kiloji、ttf-konatu、ttf-vlgothic メンテナンス中
- 岩松さん <http://qa.debian.org/developer.php?login=hemamu@t-base.ne.jp> <http://qa.debian.org/developer.php?login=iwamatsu@nigauri.org>
*¹⁴linux-uvc、xfonts-mona、libflash、tinywm メンテナンス中
- 小林さん <http://qa.debian.org/developer.php?login=nori1@dolphin.c.u-tokyo.ac.jp>
orpheus、serf、skkdic、skksearch メンテナンス中
- 三塚さん <http://qa.debian.org/developer.php?login=mitsuka@misao.gr.jp>
canna メンテナンス中
- 矢吹さん <http://qa.debian.org/developer.php?login=yabuki@netfort.gr.jp>
canna-shion、td2planet、yc-el メンテナンス中
- 山本さん <http://qa.debian.org/developer.php?login=yama1066@gmail.com>
file-kanji メンテナンス中

ちなみに、この中で Debian として一番重要^{*15}なパッケージは、libflash で、その次が canna のようです。

*¹⁴ 岩松さんがなぜ二つもメールアドレスを使い分けてるのは不明です。

*¹⁵ popcon での投票結果による

下ビアノ勉強会



Debian 勉強会資料

2007年12月15日 初版第1刷発行
東京エリア Debian 勉強会（編集・印刷・発行）
